

## 数えてみよ、主の恵み

山科 理永子



椅子に座っている左の方が理永子さん

私の生家は、夫を若くして亡くした祖母が一切を取り仕切り、息子達（私の父が長男で、次男、三男、一番下に長女）は祖母の我がままにふりまわされているような家でした。

小学校の頃、学校から帰ると家がぐちゃぐちゃになっていて、それは祖母が暴れた後でした。家の者全員が祖母の機嫌をそこねないように生活していました。そんな理由もあって、次男も三男も大学やら仕事やらで関東の方に出て行きました。私の父も私が小二ぐらいの時に仕事で関東の方に単身赴任しました。父は月に一度は必ず帰って来ていましたが、私と妹は父が出かける時いつも泣いていました。それから祖母は寂しさもあってますます大変になり、母はよく一晩中、祖母の枕元に座らされて、小言を言われており、私と妹は階段をそーと途中までおりて様子をうかがったりしていました。おばあちゃんなんか早く死ねばいいと思っていました。

私は二十四歳の時、五年くらいおつき合いをしていた主人と結婚し、実家を離れましたが、母を早くそんな所から解放してやりたいと思っていました。実家がそういう所だったので、結婚は私にとって、とても自由でのびのびしたものに感じました。仕事もしていましたが三十歳くらいになっても子供がでず、そのうち仕事もしんどくなってきました。学校では男女平等だと言われて育ったけれど、社会に出ると決してそうではなく、男性の倍、頑張らなければ女性性は認めてもらえませんでした。

どうして世の中には男と女しかいないのだろう、どうして人間と動物は違うのだろうと、様々な疑問や悩みが湧いてきて、主人にこれらのことを話してもワケがわからないらしく、子供ができないこともあわせて悩んでいる時、友達がいい所があるよと教えてくれました。占いだと思っていたのが実は〇〇教という所でした。その友達と仕事帰りにそこに行き、巫女さんの

ような人の前に手を合わせて座ると、その人が歌うようにして私の過去や、今のことなどいろいろ言うのです。何々が見えますが、それはこうしたらいいとか、いろいろ。そして人は木の股から生まれたのではなく、人から生まれたのだから、あなたの先祖を大事にして祀りなさいと。それで私と友人はウソかホントかわからないけれど、やってみようと思いい、家に仏壇はないけれど、ろうそくを灯し線香を立て、実家の仏壇から過去帳なるものを書き写し、先祖の名前を連呼し、般若心経も覚え、朝晩拝みました。そして月に一度くらいその〇〇教へも行っていました。

私の祖父、主人の祖父、その親の親、いったいどこまで名前をあげ供養すればいいのか、そして子供がでないということは、自分が死んだ後も祀ってもらえないわけで、それはそんなにも不幸なことなのか、私は自分の人生に霊の「さわり」などあってはならないと、結構一生懸命やっていました。そのうち人は死んだら

## 7人の証し

Unser Herr, Ich

どうなるのかと思いはじめ、その〇〇教や仏教に関する本を読み、この世は修行の場で、死んだら元いた霊の集まり？に帰り、それもいろいろ階級があつて、修行の結果、良しと認められたら上のクラスに、良くなければ下は動物や昆虫などに。でも虫になつても、かつての自分が人間であつたと覚えてなければ苦しくもなんともないじゃないかと、いろいろ疑問だらけでした。その巫女さんに石の上にも三年と言われていたので、ともかく三年はやつてみようと思つていました。

ある時とても苦しくなつて「神様、ほんとうに神様と呼ばれている方はおられるのですか？それは大きなエネルギーのようなものですか？おられるなら教えてください」と、祈りとも叫びともつかないことを心の中で言っていました。

求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開か

れます。だれであれ、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。(マタイ 7:7-8)

そのしばらく後、主人と英会話を習おうかと言っている時、駅で外国人がビラを配っていたのでもらうと、教会での英会話教室でした。授業料は安いし、日曜の夜なので二人で行けるし、参加しました。

英会話教室の後バイリンガルで聖書のお話もあり、残つて聞いたら勉強になるよと言われ、素直な？私達はそれにも参加しました。そこで、「わたしが主である。：わたしのほかに神はいない。」(イザヤ45:5)というのを聞いて最初のうちは、キリスト教はうまいことを言つて他の宗教を排斥するなあと思つていました。が、そのうち「あなたの重荷を主にゆだねよ。主は、あなたのことを心配してくださる。」(詩篇55:22)というみことばや、主が男を造り、そのあばら骨から女を造られたこと、動物と人間は初めから全然ちがうものとして造ら

れたことなどを聖書を読んで知り、このイエス様という方にかけてみようと思ひました。女を男のふさわしい助け手として造られた。だから私はしんどかつたのかと思ひました。男と肩を並べて一生、仕事をしていきたいと思つていたので。

イエス様を信じていきたいと牧師に言つて洗礼を受けることになり、主人に話すと「僕も受ける」と言うのです。「え？何で？」と思ひましたが、主人も神様の家族になりたいと思つたらしいのです。二人一緒に受洗しました。でもまだその頃は、夜寝る前に私がいろいろ祈ると、主人は「それは昼間祈つて。疲れているので早く眠りたいから、夜のお祈りは短くしてくれ」と言っていました。

その年の夏、徳之島へダイビングに行く予定でしたが、夜はお酒を飲んでツアーの人達と遊興<sup>ゆうきやう</sup>酩酊<sup>めいてい</sup>の宴会になるだろうし、台風も来ていたので私はもう行きたくなくなっていました。「やめよう」と、主人に言いま

したが、遊ぶことにかけてはガンとして言うことをきかない人で、すでにツアーには申し込んでいたこともあり、空港へ向かうバスの中でも私は祈り続けました。「主人があきらめられるように、ハッキリとあきらめられますように」。するとあろうことか、空港についたとたん、主人が「やめとくわ」と言つたのです。他の人達は皆出発しました。後で聞くと、出発した人達は、九州まで飛んで乗り継ぎで徳之島へ行くはずだったので、その乗り継ぎ便が飛ばなくて皆帰つてきたというのです。飛ばなかった便はその便だけで、前後の便はみな飛んだそうです。ほんとうに主はハッキリあきらめさせてくださいました。

そんなことがあつてもまた、年末にフィリピンへ行くダイビングツアーがあり、主人が行きたいと言つて申し込みました。私は前回止められたからやめた方が：と思ひましたが、主人の思ひは強く、私は「行くのがみこころでなければ止めてください。出発の朝にでも



頭が痛くなるとか……」と祈っていましたが、主人は「頭痛くらいなら行くー!」と思っていたようです。

出発一週間前に(主人は農業機械の仕事をしているのですが)左手人差し指の先をスプロケット(チェーンと連動して回転する歯車)にまきこんでカットしてしまいました。私はびっくりして、これは主からの答えだ、でもちよつとひどいんじゃないやませんか、イエス様、と思いました。後でこれは必要最小限の主のあわれみだとわかりました。

けがをしても主人はダイビングに行くというのです。一緒に行くツアーの中に外科医がいて、「処置する道具をみんな持つて行つたから行く」と言われて。

主人が消毒のため、病院に行き、先生にそれを言うのと、「行つてもええで、もつと短くなつてもいいんやつたら」と言われてやつと断念しました。それから主人の祈りが変わりました。

そのことと前後して、私達は子供が与えられるよう祈っていました。結婚して六年くらいが過ぎていました。当時通っていた教会の方々も祈ってくださいました。ある時聖書を読んでいて、不妊の女サラが子供を与えられるところで思わず「私にはいつですか? イエス様」とたずねた時、次のみことばが目にとびこんできました。

しかしわたしは、来年の今ごろサラがあなたに産むイサクと、わたしの契約を立てる。(創世記 17:21)

そして私はほんとうに主に感謝し、礼拝しました。でもしばらく主人にはそのことは伏せていました。来年の今頃ならもうすぐ妊娠するはずだから、と仕事をやめて待ちました。でもなかなか妊娠しませんでした。そうこうしているうち、私の住んでいる町にクリスチャンでアメリカ人の大工さんがいて、その方が「子

供がほしいなら簡単です。名古屋にいる女性の宣教師さんが望まれないで生まれた赤ちゃんをクリスチャンホームに合法的に養子縁組しているから、電話しましょう」と言つてすぐ電話をかけられました。電話口に出た私にその方は「女の子がいいか、男の子がいいか」と聞かれ、私は何も考えていなかったけれど、さきに「女の子」と言いました。その頃になると、私にはもうあのみことばがほんとうに与えられたものかどうかかわからなくなっていました。

そんな時、主人が出張で山形に行くことになり、スキーもできるので一緒について行くことにしました。出発前に教会の祈り会に出てから行くとうと主人が言うので、私は早く出発したかったのですが祈り会に出ることになりました。宇都宮から宣教師さんが来られていて、その方は祈りの課題で「今三箇月の赤ちゃんを預かっていて、その子は韓国人と日本人のハーフで、アメリカで養子先が決まっているが国籍の問題で今裁

判中。アメリカに行けないかもしれない。その時は日本で親が必要です」と言われると、皆が私達の顔を見るのです。牧師さんは、宇都宮は山形へ行く途中だから、寄つて赤ちゃんに会つてきたらいいと言われました。せっかくのバカンスが、「どうしよう。えらいことになった」という思いでいっぱいになり、赤ちゃんを見てもどうしたらいいのかわかりませんでした。「もし、あの子がアメリカに行けなければ、主が私達にと言われていることとして受け入れます」と祈ってしました。

何箇月かしてその子は結局アメリカに行けなくなり、私はビルの屋上から飛びおりる思いで「受け入れます」と、返事をしました。私にはえらいことになったという気持ちと不安しかありませんでした。そんな私を見て、牧師が「ちよつと待ちなさい。導きだったら喜びも平安もあるはずですよ」と言われ、宇都宮の宣教師さんと話をされたところ、宇都宮の宣教師さんがその子を六箇月世話をしていたら、もう手放せなくなつて

しまったということがわかり、一件落着きました。

そうこうしているうちに、またあのアメリカ人の大工さんが、名古屋の宣教師さんからの連絡が遅いから電話してみましようと言われ、連絡をとられました。するとその宣教師さんはアメリカに一時帰国しておられ、代理の人が私の名前が見つからないから書類を送るので記入して送り返してくださいと言われました。書類がきて、ハテどうしようと思い悩んでいる時、ハタと気づいて産婦人科に行くと妊娠していることがわかりました。クリスマスの日でした。それはみことばをいただいたからちようど一年たったときでした。

出産するまで男か女かわからなかったのですが、名前は「イサク」しかないねと言っていました。主はほんとにご真実で約束を守ってくださいるお方であり、私達の幼い信仰を見て、イシュマエルを得ようとしたことも止めてくださいました。とてもとてもうれしい出来事でした。

私達の息子イサクが生まれてしばらくした頃、妹の子供が二歳で脳腫瘍とわかり、私達家族にとつては晴天の霹靂でした。イサクが生まれるまでは私はとてもその姪を可愛がっていて、姪もよくなつてくれました。手術もしましたが、脳幹にできていたので、とり切れることは無理でした。彼女の耳元でイエス様の話をし、イエス様にもうすぐ会えることを伝えました。三歳で彼女は天に召されました。そのことで私は通っていた教会で飢え渴きを覚え、どうしてこんな苦しいことが妹の上におきるのか、答えは教会では得られませんでした。様々な教会の講演会にも行きましたが、渴いたままでした。

そんな時、吉祥寺キリスト集会の軽井沢キャンプに誘われ、軽井沢なんて関西からはあまり行かない所だし、遊び気分教会の若い人達七、八人で、当時旧軽井沢で行われていたキャンプに参加しました。軽井沢に来るのは最初で最後と思っていました。末期がんに冒

されていた笹川郁夫さんの証しがあった時で、私達はわけがわからない状態でしたが、帰りの車の中でとても満たされている自分を感じていました。

奈良に戻ると、主人はそうでもなかったのですが、私はもう前の教会に行く気はなくなっていました。主人は牧師さんと呼び出され、数人でちがう所のキャンプに行つたことを注意されました。主人も牧師さんとの様々な話の中で疑問を感じ、二人ともその教会に行く気がなくなり、イエス様と離れる気はなかったもので、「どうする?」と言ったまま、結論を出せないでいました。そんな時、吉祥寺キリスト集会に集っていた方が神戸に帰ってきて、集会がもたれていると聞き、神戸は遠いなあと思いつつ、一度きりになるかもしれないけれど行ってみようと思いました。それからずーっと神戸キリスト集会(震災後は普屋キリスト集会)に集っています。

集会に集いだして証しの本などを友人、親族に送り、

## 7人の証し

Unser Herr lebt

父のすぐ下の第一家が五人全員救われました(「光よあれ」第五集に載っています)。その何年か後、おじの長男(私のいとこ)が、盛岡の大学から御代田のキャンプに集う時、いとこの乗る自転車(ミグラー)が早朝スピードを出していて、トラックと衝突し、突然天に召されました。召される少し前に神戸キリスト集会に来たことがあって司会に指名され、前後の脈絡は忘れましたが、「自分の国籍は天にある」と確信をもって話していたのを覚えています。とても悲しい出来事ではありましたが、おじ一家の心が不思議と守られていたことを思います。その後、私が早く死んでほしいと思っていたあの祖母が肝臓がんだとわかりました。私は救われてから、この祖母こそ救われてほしいと願ひ祈っていました。祈りつつ、まだ少し祖母のことを恐れつつ入院先に行き、イエス様のことを伝えました。「イエス様がおばあちゃんのことを愛してください」と言う「何でわかるねん」と言つたので、イザヤ書四十三章四



節の「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」というみことばを伝え、イエス様がおばあちゃんの罪のために死んでくださったことを話すと笑顔になって喜んでいました。また行こうと思いつきながら帰ってきた時、父から電話があり、祖母がすごく喜んでいて、あんなうれしそうな顔は見たことがない、また、行ってやってくれと言われ、行こうと思つた矢先、祖母は召されました。

亡くなる前に祖母が母に、「迷惑かけたな、悪かった。ありがとう」と言つたことを、同席していた叔母から後で聞きました。私の母はそれを聞いてすべてを赦せたらしいのです。生きている時はひどいことをされていて、祖母の悪口やら、愚痴やらをいっぱい言つていた母でしたが、亡くなつてからは一言も祖母のことは口にしませんでした。母なら当然言いそうなのに。それは母がすばらしい人なのではなく、そこに赦しの神がご臨在してくださつていたことを思います。

もしもですが、天に召されていきました。彼女は小さい時、麻疹がもとで耳が聞こえなくなり、専門の学校に通つていたそうです。その学校の近くに教会があり、そこに通つていたらしく、イエス様のことはすでに知つていて素直にみことばを聞き聖歌を喜んでいました。そして召されていきました。

ほどなく私の父の一番下の弟が、五十代でがんになり、病院への車の送り迎えを私が買って出て、車の中で聖書メッセージのカセットテープをかけたり、いろいろ試みましたが、叔父は神様がいるとは思つていなくて、それがイエス様かどうかかわらないと言つていました。もうすぐ亡くなるという時、病院へ行つてお祈りしようと思いましたが、私の母が付き添つていて、祖母の時もそうでしたがイエス様の話をしようとする、袖を引っぱたり、いらぬ話をして邪魔をするので、行く道中「母を打ってください。母を打ってください」と、祈つていました。病室につくとなんだかだっぴ

次に主人の父の後妻さんの連れ子であった、主人と同じ名前のカズオさんのことをお話ししたいと思います。彼は夫婦間の問題から自殺を図つて、発見され命はとりとめましたが、手足は麻痺し動かず、ほとんど何の意思表示もできずベットに横たわつたままになりました。主人と私は時々病院へ行き、どうしたらいいのかわからないので、聖歌のカセットテープをかけイヤホンを耳に入れて帰つて来ていました。少し良くなり退院して主人の実家に帰っている彼を見舞いに行き、ヨハネの福音書の一章を主人が読むと、椅子にもちゃんと座れず、何もわからないだろうと思つていた彼が、みことばの一つ一つに涙を流しながら「あい。あい。」（「はい」のこと）と答えたのです。もう彼はこれで救われたと思ひました。そしてほどなく召されていきました。

それからかなりたつて主人の父の後妻さんがなくなり、救われて、というより前から救われていたのか

ろい部屋で、母が私の手をひいて、叔父の前につれて行くのです。何か話すことがあるでしょうと言わんばかりに。もう目も見えなくて、あと数時間かなという感じでしたが、意識ははっきりしていたので叔父にお祈りしていいかを聞いて祈りました。「叔父の罪のために死んでくださったありがとうございます」と。祈り終わると、叔父は「もう何も心配することないやん」と言つてほんとうに安らかになっていました。様々な心の葛藤、苦しみ、後に残す家族のこと、自分の行き先、いろんな思いがあつたでしょうが、すべてイエス様に重荷を預けることができ、平安のうちに召されていきました。

話は前後しますが、主人の父もがんになり、二、三年間闘病生活を送っていました。元気な時は、「ワシが死んだら祀つてくれへんのんか」とか言つていましたが、ベックさんのお話を聞かせていただき、イエス様を受け入れ、安らかに召されていきました。

そしてある時、私の父が単身赴任している群馬県の病院から母に電話がありました。「ご主人が危篤<sup>きどく</sup>なので病院に来てください。二度目の肺気胸で穴があいて、肺気腫もあって今は手術もできない状態で、クシャミでもしたらもう亡くなるかもしれない」ということでした。父は四十年くらい単身赴任をしていて、月に一度帰ってきていました。私が三十代後半の頃、父には群馬に家庭があると叔母から知らされました。母に伝えたのですが、信じたくない母は、その話を受け入れませんでした。母の救いのためにも真実が明らかになりますようにと、十年以上祈っていた結果でした。ちょうど、私達家族が御代田キャンプに行っていて、帰り支度をしている時、母から電話があり、急きょ群馬に行きました。父はほんとうに苦しそうで、その時死の覚悟をしていたようです。今は手のほどこしうがないということでした。年配の女性が病室にいて、主人がその人という話をしてくれました。私は母

と会わせようと思い、母が大阪から駆けつけた時に会わせましたが、別に何事もなく終わりました。その後、担当医の先生が、(私が事情をすべてお話ししたので)、容態も少し落ちつき、なんとか大阪へ帰れるようになりますと言ってくださり、私はそんなことは何も頼んでいなかったのですが、不思議に先生は、帰れるようにと手術をしてくださいました。手術前に父はベックさんとも一緒にイエス様にお祈りすることができ、手術中、危険な状態にもなったようですが、イエス様のおかげで命びろいしたと喜んでいました。そして二、三箇月後、大阪へ帰ってきました。父は四十年の荒野を旅して帰ってきました。七年くらい寝たり起きたりの生活で最後は介護を要しましたが、妹は父と介護を通してふれあえたことを喜んでいました。私が枕元でみことばを読んでいる最中に召されていきました。

そして、一昨年母が九十三歳で召されました。彼女の生涯は忍耐の一生でした。認知症と歩行困難があり

ましたが、最後はちよつと不謹慎な言い方ではありま

すが、ペットのように可愛らしくなり、私の言うことは何でも素直にきくようになっていました。昔、私が子供の時、母が針仕事をしているかたわら、ラジオから「ルーテルアワー」という番組でイエス様の話を聞いていたのを思い出します。母にも小さい証しを与えてくださいと、お祈りしていましたが、ないまま召されていきました。でも主はやはりご真実な方で、棺<sup>ひつぎ</sup>に入れた次の日に顔を見たら、母は実に若々しく美しく装われていて、とても九十三歳には見えない顔になっていました。これが祈りの答えなんだと思います、天国で出会った顔はこんなかもしれないと思いました。もうその時は親やら子やらではないかもしれません。

イエスは彼らに言われた。「そんな思い違いをしているのは、聖書も神の力も知らないからではありませんか。人が死人の中からよみがえるときには、めとることも、と

つぐこともなく、天の御使いたちのようです。

(マルコ 12:24-25)

私が救われてから実家を、母を、悪の呪縛<sup>じゆばく</sup>から解放してくださいと祈ってきましたが、主がほんとうにそのことを成し遂げてくださいました。最後に自戒をこめて、

ヨシユアは年を重ねて老人になった。主は彼に仰せられた。「あなたは年を重ね、老人になったが、まだ占領すべき地がたくさん残っている。」 (ヨシユア 13:1)

山科 理永子 (やましな りえこ)  
一九五三年一月生まれ、大阪府出身、現在奈良県生駒市在住

夫 一雄 (かずお)



## 一つの棘と忍耐<sup>とげ</sup>

野口隆

### 救いの計画

私は、一九四四年(昭和十九年)終戦の一年前に東京中野で生まれ、学生時代まで渋谷に住んでおりました。自分の将来や生活は、自分の力で、努力で切り開いて行くのが当たり前だと信じておりました。周りの助けを借りることがあっても、最後は自分だけしか頼りにならないという思いがあったからに他なりません。何かに頼ろうとすることがあっても、それは自分に都合がよいご利益的なものであったと思います。神にすがって助けてもらうということは絵空事のように思っておりました。

私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。(2019年 4・18)

このようなことは、全く理解することが出来ないこ



幸子さんと



とでありました。目で見えるもの、頭で考え、経験で得た知識に頼った生き方をしておりました。

神などまったく信じられない、神などいない。即ち自分の力に頼った無神論者でありました。せいぜい困った時の神頼み程度の者でした。

困った時に神に頼ることは女々しい者がするものだ。弱い者、自分に自信のない者が神にすがろうとするのだと思っておりました。

今までの人生の中で全て肝心なことは自分で決め、切り開いてきたとの自負を持って生きてまいりました。そしてこのような生き方で困ったことはありませんでした。今の競争社会そのものの生き方であります。努力すれば、頑張れば道が切り開けると信じておりました。まさしく高度成長時代の真つただ中にあり、このような世の中が大好きでありました。

このような者がどのようにしてイエス様と出会い、百八十度人生が変えられたのかを証し致します。

## 妻との出会い

一九六六年(昭和四十一年)に社会人になり、その頃にはやった猛烈社員ではありませんが、朝八時から夜九時ごろまでの仕事、往復四時間弱の通勤、時には徹夜も辞さない日々が続いておりました。それでも自分の開発した製品がどんどん売れるなど結果が目に見え、毎日が充実しておりました。目一杯仕事をして、仲間と酒を酌み交わしながら議論を戦わせるのが日課となっておりました。

このような時に結婚の話が持ち上がり、相手はクリスチャンということでありました。無神論者であった私は、仏や神の区別はもちろん、ましてや外国の宗教と思ひ込んでいたキリスト教などとは無縁の世界にいましたで、この妻との結婚がイエス様と出会うきっかけになるうとは夢にも思っていないませんでした。その時は意識しておりませんでした、まったく価値観の違う者が一緒になったという事に、私は何の疑問も抱く

ことはありませんでした。そのうち子供を授かり、順調な生活を送っておりましたが、東京での生活に余裕が出来てくると、妻は日曜に礼拝に行きたいと言い、近くの教会に集うようになりました。

私が行くのを認めたのは、自分のテリトリー(領域)を侵さなければ、何を信じようが許容出来たからであります。また家庭を大事に考えておりましたので、妻が喜ぶことであればと認めていたのであります。

しかし、そのうちに妻が求めている教会とは違うということ、あちらこちらと求める教会を探し回るようになりました。その中で吉祥寺のキリスト集会を知ることになり、妻の友人と私たち夫婦の三人で日曜の福音集会に初めてまいりました。一九八三年(昭和五十八年)ごろだと思えます。妻はすっかりその集会が気に入って一人で度々集うようになりました。

私も子供のアッシーとして集会に行きましたが、福音メッセージは何を言っているのか全く分かりません

でした。死、罪、悔改め、イエス・キリストの血潮とか十字架の御業と言った、非現実的なおどろおどろしい言葉が耳について、全く自分の心の中に入って来ることはありませんでした。多分、これらの聞き慣れない言葉に躓いてしまったのかもしれませんが。

あまり深入りしたくない、信じたくないと言う気持ちが強く支配していたために、耳も目も閉ざされてしまっていたのであります。集会に行っても人と話すことなく、この得体の知れない集団から早く逃げ帰ろうとばかり考えておりました。このような私の性格を知ってか知らずか分かりませんが、妻は私をイエス様のみもとに連れて行くだけで、後はイエス様と本人の関係だとはかり、強要することもなく、じつと祈り見守ってくれていました。

するとそこに、男たちが、中風をわずらっている人を、床のままで運んで来た。そして、何とかして家の中に運

## 7人の証し



び込み、イエスの前に置こうとしていた。しかし、大ぜい人がいて、どうにも病人を運び込む方法が見つからないので、屋上に上って屋根の瓦をはがし、そこから彼の寢床を、ちょうど人々の真中のイエスの前に、つり降ろした。彼らの信仰を見て、イエスは「友よ。あなたの罪は赦されました。」と言われた。

(ルカ 5:18-20)

しかし、イエス様は私の頑なな性質をご存知であり、救いのためには八年の歳月が必要であると判断なさっていたのだと思います。妻の態度を通して、イエス様が忍耐を持って働きかけてくださったのだと今では確信しております。これが逆に熱心にこれでもか、これでもかと働きかけられていたならば、百パーセント信ずることはなかったと思います。さらに言えば妻とは破局を迎えていたかもしれません。

どうか、忍耐と励ましの神が、あなたがたを、キリス

ト・イエスにふさわしく、互いに同じ思いを持つようにしてくださいますように。(ローマ 15:5)

#### 仕事上での人間関係

努力すれば、頑張れば道が切り開けると信じていた私にとって、一つの問題が起こりました。会社はオーナー会社であり、その親族の方が私の部署に配属されました。この時は上手く行っていたのですが、暫くして人事異動で私が別の部署に配属され、数年後に元の職場に戻ってみると、何とポジションが替わって彼の部下と言う立場になっておりました。能力・実績・経験どれ一つとっても劣ることは無いと自負していたので、割り切れない思いで憂鬱に過ごすようになりました。この頃の自分は、努力すれば、頑張れば道が切り開けると言う意識の下に、一方的に自分に都合が良いように他人と比較していたのであります。

偽善者たち。まず自分の目から梁を取りのけなさい。

そうすれば、はつきり見えて、兄弟の目からも、ちりを取り除くことができます。(マタイ 7:5)

私たちは、自己推薦をしているような人たちの中のただれかと自分を同列に置いたり、比較したりしようなどとは思いません。しかし、彼らが自分たちの間で自分を量ったり、比較したりしているのは、知恵のないことなのです。私たちは、限度を越えて誇りはしません。私たちがあなたがたのところまで行くのも、神が私たちに量って割り当ててくださった限度内で行くのです。

(2コリント 10:12-13)

このみことばの通り知恵の無い行いをしていたのであります。これは高ぶった生き方をしていた私に与えてくださった一本の棘なのであります。

#### この世との決別

その後も吉祥寺キリスト集会、家庭集会や地方で開催される喜びの集いに行くという生活を送っていましたが、目に見えて変わることはありませんでした。しかし、仕事での人間関係、集会の皆さんとの出会いや証しを通して氷河が解けるように、何かが心の中にしみ込んで行くのが分かりました。頑なな心に風穴が開き始めました。

今までの何でも自分の力で、努力で切り開いてきた人生も、見込み違いではなかったのかと疑問に思うようになりました。本当に困った時には自分の力など何の役にも立たないとも思うようになりました。しかし、決定的なものとはなりません。集会の皆さんの壮絶な証しにあるように、何か特別な試練が与えられれば信ずることが出来るのではないかなど馬鹿なことを考えたこともありました。

けれども、このように駄目な者に対しても、何か見

えない力によって、集會に集うことが苦にならないばかりか、何かほっとする気持ちを持つようになるまでになってきました。

しかし、いざ信ずるとなった時、今までの世界から信仰の世界に入ること躊躇するようになりました。何か見えない壁が目の前に大きく立ちはだかつていました。信仰の世界に入ると、異質の人にならなければいけないのでは、清廉潔白な生き方をしなければいけないのではと思うようになりました。自分には自信が無いし、出来ないのではと決心がつかねておりました。

このように「清水の舞台」で躊躇していた私の背中にある姉妹がポンと押してくださいました。あんなに躊躇していた者があつてなく信仰の道に飛び込むことができました。いざ入ってしまふと何の変わりもありませんでした。何をあんなに心配していたのかと思うぐらいでした。

変わったのは心の中でした。心の問題だったのであ

ります。最初に吉祥寺の集會に一緒に行ってくださいました妻の友人が二十年ぶりに我が家に来てくれた時に妻に言ったそうです。あの時と全く顔つきが違っている。自分では気が付きませんでした。一九九〇年(平成二年)十二月に吉祥寺キリスト集會で洗礼を受けました。洗礼の時、水が顔を覆った瞬間、スーッと力が抜け、イエス様が私を支えてくださっていると確信することが出来ました。

### 忍耐の体験

あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。主は、あなたの義を光のように、あなたのさばきを真昼のように輝かされる。主の前に静まり、耐え忍んで主を待て。

(詩篇 37:5-7)

主の救いにあずかる過程で、「忍耐」についてイエス様ご自身が身をもって教えてくださり、このみことばに信頼を置いたときに、イエス様は共にいて導いてくださったことを体験することが出来ました。

私は四十七年間務めておりました会社を、二〇一三年六月に退職しました。

勤めておりました会社は、皆さまの所に電気を届けるための、発電・送電・配電をする電力業界内の配電機器の専門メーカーでありました。ですから皆さんには直接目に触れることもなく、馴染みのない業界だと思っています。

その会社生活の最後の十年間、経営の一端を任されておりました。この頃はまさにバブル経済が破綻し、日本経済が急坂を転げるように落ち込んでいく時でありました。電気が売れない状況で、売り上げが半減、会社の規模もリストラや企業再編等で四割ほどに縮小していたところでした。このような環境の中で、まして

や技術以外何も知らない者が、会社経営など出来るのかと言う不安でいっぱいでありました。多くの人たちの家族の命運を背負っていると思うと逃げ出したくなるような毎日でありました。その後バブルの後遺症も一段落したと思ったら、二〇〇九年のリーマンショックが世界を含め日本経済を襲いました。これも何とかしのいだと思ったら、駄目押するような出来事が起こりました。あの二〇一一年三月十一日に発生した東日本大震災でした。当時、まるで泥船にのって水を掻き出しているような日々でありました。

この時、心に誓ったのは、どのような状態に陥ってもリストラだけは避けようという思いでありました。あのリーマンショックの時は、特管職(特別管理職)として先頭に立ってリストラを遂行しておりました。年功序列社会にどっぷり浸かった日本企業で、人の将来を、生活を左右しかねないものでありました。その時に退社して行った人の顔を今も忘れることがありませ



ん。しかし、経営とは決断、結果、責任が全てであり、いつもこの事が問われるものでありました。そのストレスたるや、胃に穴が開くような、と表現される通りの心境でした。

過去の諸先輩がこう話されておりました。「現役時代はあれ程、薬漬けであったのに、辞めてからは半減した」とか、「健診の判定がCからAになった」と仰って、「何年もやるものではないよ。早く楽になったら良い」と忠告していただいたものであります。

その頃、私の毎日の日課は、朝夕と会社で祈ることでありました。先ほどのみことばに信頼し、今与えられている出来事を試練としてしっかり受け止めることが出来たから、それ程までのストレスを感じることはありませんでした。

あなたがたの会った試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたが

たを耐えることのできないような試練に会わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。

(1コリント 10・13)

このみことばに励まされ、内に住んでいてくださるイエス様が支えてくださっているから、このような環境下にあっても、百パーセントかどうかはわかりませんが、何とか脱出の道を模索することが出来たと確信しております。忍耐を持って耐えられたのであります。

幸いなことよ。悪者のはかりごとに歩まず、罪人の道に立たず、あざける者の座に着かなかつた、その人。まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ。その人は、水路のそばに植わった木のように。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。悪者は、それとは違い、まさし

く、風が吹き飛ばすもみがらのようだ。それゆえ、悪者は、さばきの中に立ちおおせず、罪人は、正しい者のつどいに立てない。まことに、主は、正しい者の道を知っておられる。しかし、悪者の道は滅びうせる。

(詩篇 111・6)

だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

(2コリント 5・17)

ですから、私たちは勇気を失いません。たとい私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。

(2コリント 4・16)

野口 隆 (のぐち たかし)

一九四四年東京生まれ、笹塚中学校、都立松原高校、武蔵工業大学 (現 東京都立大学) 電気工学科卒業、(株)三英社製作所入社 専務取締役を経て二〇一三年退職、民生委員を二期六年

妻 幸子 (さちこ)

長女 森 若菜 (わかな)

次女 梓 (あずさ)

# イエスさまは決してあなたを離れず またあなたを捨てない

野口 幸子



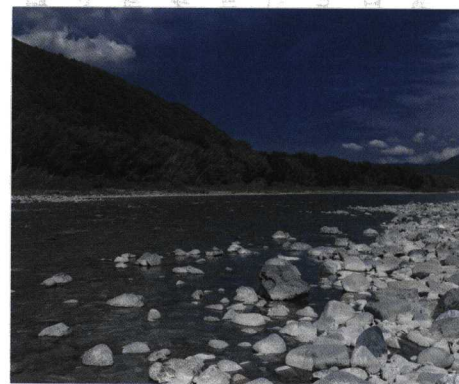
ご家族と(中央が幸子さん)

私は、一九四八年(昭和二十三年)五人兄弟(兄二人、弟一人、姉一人)の四番目として三浦綾子さんの小説で有名な旭川で生まれ育ちました。

中学から大学まで、札幌のカトリック系ミッションスクールの姉妹校である旭川の高校に通っておりまして、「公教要理」と言う授業があり、神父様が教えてくださっていましたので、神の存在を疑うようなことはありませんでした。父は、友人の家の近くに住んでいた聖書と出会ったのは、友人の家の近くに住んでいたアメリカ人の宣教師に英語を教えてもらおうと門を叩いたのがきっかけでした。英語は教えていただけませんでした。友人と二人で熱心にバイブルクラスに通うようになりました。

初めて教えていただいたみことばは次のものでした。

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅





びることなく、永遠のいのちを持つためである。

(三ハネ 3・16)

私の中でずっと疑問に思っていたのは、人は何のために生きているのか、死んだらどうなるのか、どこへ行くのかということでした。

この聖書の言葉で、人は永遠に生き続け、御子イエスさまを信じた人は、永遠のいのちをいただくことが出来ることを知りました。また聖書の中には全ての疑問に対する答えがあることも知りましたが、みことばの深い意味などわかるはずがありませんでした。

それから暫くして、宣教師から、市民プールでバプテスマを受けました。父も母も、私がクリスチャンになることに反対はしませんでした。信ずるものがあれば、何かあった時に強く生きられるからと言うことでした。父は、私が反抗すると「右の頬を打つような者には左の頬も向けなさい」と書いてあるよ、と言っており

ました。教養のためだと思いますが、父は聖書を読んでいたのです。

その後、宣教師はお子さんの病氣治療のためアメリカに帰られました。友人は高校卒業後、千葉にあるバイブルバプテストの神学校に行き、今はご主人と共にインドネシアの宣教師として福音伝道に携わっております。私は札幌の短大の保育科へ進みました。以前、日曜学校の奉仕をさせていただいた関係から、子供たちに福音を伝えたいとの思いを持っていたからです。卒業後は、友人の紹介で教会附属の幼稚園の先生になり、三年間勤めました。その教会には牧師、宣教師がおりましたが、大きな問題が起こり、辞めざるを得なくなりしました。そのような中で、三年の間、子供たちに福音を伝えることが出来たのは大きな恵みだったと思っております。

旭川に戻った私は、吉祥寺キリスト集会と同じように献金制度も会員制度もない、ニュージーランドの宣

教師が立ち上げたばかりの教会に導かれました。十人足らずの小さな群れでしたが、喜びに溢れておりました。町の中心のビルの一室を借りて集会を行っていました。終わった後は、よく町の中へトラクト配布に出かけたものでした。だんだん救われる人も増し加えられていきました。しばらくして、教会の本棚にリンデ

さんの「実を結ぶ命」の本があるのを見つけました。それは三橋さんという伝道者が持ち込まれたものではないかと思われま

す。この教会では、札幌から三橋さんという肢体の不自由な伝道師に来ていただいて伝道集会を開くことがありました。以前、吉祥寺キリスト集会でも三橋さんをお呼びして伝道集会をされたと聞いたことがあります。そして三橋さんから吉祥寺キリスト集会のことを聞いておりました。私もいつか行ってみたいと思っておりました。しかしその後、集っていた集会は、ちりぢりばらばらになってしまいました。それ以降、私も教会へは行かなくなっていました。

した。一緒に教会を離れた知人と山登りをしたり、スキーをしたり、旅行に行ったりとこの世を楽しんでおりました。

そのような頃、主人とお見合いの話がありました。私は教会で結婚式を挙げることに、信仰の自由を認めてくれること、一年に一度は旭川に帰省することなどの条件を付けました。しかし主人はこのような条件を、余り気にも留めていないようでした。

慣れない東京での結婚生活にも慣れ、長女が二歳の頃やつと落ち着いてきた生活の中で、旭川にいた時に一度行つて見たいと思っていた吉祥寺キリスト集会に、家族三人で行くことが出来ました。まだ旧会堂の時代でしたが、福音集会が終わってから、パンとスープをいただいたのを覚えております。初めての印象は、人の多さとメッセージの素晴らしさに圧倒されたことでしたが、私の飢え渴いた心を満たすには充分でした。



鹿が谷川の流れを慕いあえぐように、神よ。私のたましいはあなたを慕いあえぎます。私のたましいは、神を、生ける神を求めて渴いています。(詩篇 42:1-2)

まだその頃は子供が小さかったので、時々しか集うことが出来ませんでした。長女が小学校に入学し、次女が三歳の頃に、東京都大田区から埼玉県狭山市に引っ越してきました。その頃、所沢の集会の方から祈り会に誘われ、行くようになりました。所沢のある方が初めて集会に行った時に、ベックさんから「あなたのご主人は救われていますか」と聞かれたそうです。それからご主人の救いを祈るようになったと言われておりました。それから、私も主人のために祈るようになり、祈り会の皆さんにも祈っていただきました。

そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみにとばによるのです。

(ローマ 10:17)

主人にみことばを聞いてほしいと願っていましたが、高度経済成長期の真つただ中、企業戦士として働く主人は、朝早くから会社に出かけて夜遅く帰るという生活で、日曜日に集会に行くのは無理でした。ある時、友人が所沢にある教会で午前中カウンセリングの勉強会をし、午後四時からその方々のために福音集会も行っているから、どんな所か見てきてほしいと依頼され、偵察に行ったのがきっかけで行くようになりました。初めて聖書の言葉を聞く人には、牧師さんの話はわかりやすく、しかも面白く、主人が聞くにはとても良いと思ったので、日曜日の午後四人で出かけました。そんなことが半年ほど続いたのですが、その勉強会も終了したので私たちも行かなくなりました。

その後、荻窪や滝山の家庭集会、軽井沢のキャンプへと誘われ、ベックさんからお話しをお聞きすること

で、一九九〇年十二月に吉祥寺キリスト集会で主人は洗礼を受けました。同じ土台に立つことが出来て感謝でした。主人からも私と結婚しなければ、イエスさまを知ることはなかったと言われ、主の憐れみにただただ感謝でした。

私の旭川の家族は、姉は赤ん坊の頃ジフテリアに罹り亡くなったと聞かされておりました。二番目の兄は五十代で脳腫瘍を患い、入退院を繰り返しておりました。札幌のキャンプの折、ベックさんに病院に行っていただきお話をしてもらいました。その時には病気が進んでいましたので、はっきりとした信仰告白を聞くことはできませんでしたが、今は天国で再会できると確信しております。母も旭川キャンプに二度ほど参加し、ベックさんとお話しをする機会がありました。晩年はグループホームに入っておりましたが、脳動脈瘤や心房細動等の病気があり、二〇一九年四月に百一歳と五箇月で天に召されました。母は父が長男でしたの

で、若い頃から舅と姑に仕え、小姑の世話をし、しかも父に早く先立たれて苦勞の多い一生だったと思います。しかし晩年は穏やかで孫たちにも囲まれ、イエスさまからの平安を与えられた日々だったと思います。私の長女は二年前に結婚し、子供を一人与えられました。私たちにとっては初孫であります。孫の成長を見させていただく恵みをいただいたことに感謝しております。二人の子供たちは、今は主から離れておりますが、一番良い時に再びみもとへ戻していただけると確信して日々祈っているところです。

人は心に自分の道を思い巡らす。しかし、その人の歩みを確かなものにするのは主である。(箴言 16:9)

主よ。私は知っています。人間の道は、その人によるのではなく、歩くことも、その歩みを確かにすることも、人によるのではないことを。(エレミヤ 10:23)



神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

(ローマ 8:28)

わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。

(ヘブル 13:5)

主ご自身があなたの先に進まれる。主があなたとともにおられる。主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。恐れてはならない。おののいてはならない。

(申命記 31:8)

野口幸子(のぐちさちこ)

一九四八年旭川生れ、旭川中央小学校、藤学園旭川中学・高等学校、藤女子短期大学保育科卒業、バイブルバプテスト幕張幼稚園、森山整形外科病院勤務、結婚後主婦

夫 隆(たかし)

長女 森 若菜(わかな)

次女 梓(あずさ)



## キリスト集会へのご案内

### 吉祥寺キリスト集会

【電話】0422-21-8450 (集会所)

東京都 武蔵野市 吉祥寺本町 4-9-11  
〒180-0004

日曜礼拝・福音集会 10:30 / 18:30

火曜学び会 11:00

木曜祈り会 19:00

子供日曜学校 9:30

中高生日曜クラス 9:30

【バス】ご利用の方は、吉祥寺駅北口バスのりば  
「1番のりば」「2番のりば」より乗車して  
「北町一丁目」で下車してください。



### 牧師制度がありません

キリスト集会には牧師制度はありません。

いろいろな職業のかたが自発的に責任を分かちあい、いっさいの強制はなく、  
純粋に聖書のみことばのみに立ち、主だけを中心とする交わりを大切にするひとびとの集いです。

### 組織も、会則もありません

キリスト集会には役員会も、総会も、定例会議も、会則もありません。

みなが助けあって重荷を分かちあい、すべてが自発的によるこびをもってなされます。

### 会員制度がありません

会員として登録されるような、いわゆる会員名簿にあたるものはありません。

出入りは自由であり、宗教団体的な制度はいっさい排除して、  
主ご自身のみを頼とし、主ご自身のみが満ち満ちておられることを祈り求めている集会です。

### 献金制度がありません

月定献金、年定献金などの献金制度はなく、すべての献金は自発的に行われ、  
無記名ですからだれがいくらさげたかは主のみがごぞんじです。

### 日曜礼拝

祈りと賛美がつぎつぎにささげられ、主の十字架のあがないの血潮を覚え、  
パンとぶどう液にあずかります。

あらかじめ決められたプログラムはなく、主に示されるままに各人が祈り、賛美します。

礼拝の後は福音集会で、兄弟によって主のみことばがとりつがれます。

### 家庭集会

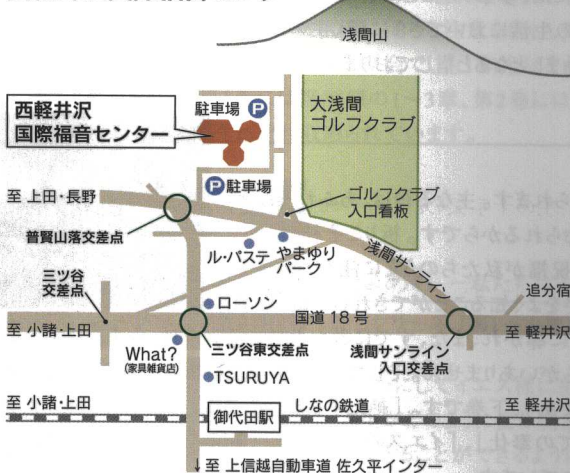
家庭で開かれる集会で、兄弟によるメッセージ、兄弟姉妹による証しがあり、  
福音の喜びをつたえる集いです。世界で百カ所以上あり、多くのところで日曜礼拝が行われます。

### よろこびの集い

西軽井沢国際福音センターはじめ世界各地で開かれ、全国の人々が集まる大きな集会です。

快適で経済的な宿泊施設を利用し、ほとんど毎週どこかで開かれます。

### 西軽井沢国際福音センター



### 西軽井沢国際福音センター

【電話】0267-32-6400

長野県北佐久郡御代田町塩野450-15 〒389-0201

### 西軽井沢国際福音センター・ゲストハウス

【電話】0267-32-6444

長野県北佐久郡御代田町塩野450-33 〒389-0201

### アクセス

#### 【鉄道】

しなの鉄道で御代田駅下車。  
タクシーで 約5分 (1000 円程度)  
徒歩 約45分 = 3Km

御代田駅へは東京駅より  
北陸新幹線にて軽井沢駅下車、  
しなの鉄道に乗り換えて三つ目  
御代田駅で下車。

#### 【車】

上信越自動車道  
佐久平インター下車 約20分 (約7km)

■ 周辺の道路に車を駐車させることは  
禁止されていますので、厳重に  
お守りください。





## モーセの十戒 神の聖なる戒め

ゴットホルド・ベック著

モーセの十戒は約三千五百年前、主がモーセを通してイスラエルの民に告げられた「十の戒め」です。そこには「聖なる神のみこころ」が現されています。ですから、当時のイスラエル人だけでなく、あらゆる時代の、すべての人間に対する訓戒とすることができます。そして、この戒めを真剣に受け止めるとき、人間は自分の罪深さを感じ知らされ、罪の問題の解決を願ってイエス様による救いに導かれる、という恵みに与ることができます。ところが、この大切な「聖なる戒め」が、今はほとんど無視され、軽んじられています。それは近年の社会秩序の乱れとも無縁ではないでしょう。こういう時代であるからこそ、「十戒のメッセージ」に心の目を向ける必要がある、と思います。キリスト集会の雑誌「主は生きておられる」が創刊号から12回にわたって「モーセの十戒」を連載し、それを単行本にまとめた理由もここにあります。



## すぐに起こるはずのこと—ヨハネの黙示録 (第1～4巻)

ゴットホルド・ベック著

ヨハネの黙示録は、初代教会で何よりも大切にされました。しかし、黙示録の内容と文章は、現代の私たちには難解なところがあり、誤読も多く、霊的に正しく読み解くことは困難になっています。しかし、この黙示録の中にこそ、末の世にある私たちにとって、何よりも必要なことが示されているのです。私たちはこの黙示録に、もっと注意を向け、深く深く読みこむべきではないでしょうか。この本は、吉祥寺キリスト集会の学び会で、約1年半ほどの間に行われたベックさんのメッセージをまとめたもので、第1巻には黙示録の1～3章、第2巻には4～7章、第3巻には8～15章、第4巻には16～終章までが、それぞれ収められています。



## 光よあれ—私たちは主のもの

証しシリーズ (第1～9集)



いかにしてイエス様に会い、救われたか、またそれによって、人生がどのように変わり、重荷から解放され、よろこびと平安の日々を生きることができるようになったかを、多くの方々が証しされています。第1集から第9集まであり、実に596人の方々がそれぞれの人生と主にあるよろこびを感動的に語っておられます。

## 実を結ぶ命 がんのうち勝ったドイツ少女リンデ

ゴットホルド・ベック編著

二十歳そこそこのドイツ少女リンデが、がんであることを知りながら、自分の死をかくも冷静に受け入れることができ、すべてを感謝し、自分の思いは少しも求めずに、喜びつつ召されていったというこの事実は、現代の奇蹟であり、神の實在を証しする一つの大きな証拠です。

「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した」(エレミヤ31・3)リンデの、主に従い通す態度は、キリスト集会の中に生き生きとしたリバイバルの波を起こし、多くの人々が自分の支配権をイエス様に明け渡し、そしてただ神のみことばにのみ拠り頼む者へと変えられています。なおこの本は韓国語版、ドイツ語版、英語版が出版されました。



## なにももの私たちが神の愛から引き離すことはできない (上・下巻)

ゴットホルド・ベック著

吉祥寺キリスト集会でのベックさんの聖書の学びのうち、「ローマ人への手紙」1章から8章までを上巻に、9章から16章までを下巻にまとめたものです。聖書に初めて接する方、信仰の歩みを始めた方のために分かりやすく書かれていて、全体は第1章から順を追って学ばれていますが、一つ一つのメッセージが深い霊的な内容を持ち独立しているため、どこから読み始めても、豊かな恵みが私たちの心に注がれます。私たちが神様のみことばに目覚め、救われるためには、たった一つの聖句でも十分でした。しかし、さらに成長していくためには、多くのみことばが、聖書全体が必要です。この本は、聖書を「研究」するためではなく、日々の生活においてさらに深く主のみことばを味わいたいと願っておられる方々のために、すばらしい励ましとなると信じております。



## 絶えず祈れ (上・下巻)

ゴットホルド・ベック著

主は私たちが祈ることを望んでおられます。主なる神は、あふれるばかりの祝福を、私たちに注ごうとしておられるからです。祈りこそ神の富のための鍵なのです。そして信仰は、祝福が私たちのうえに注がれる扉を開けるのです。祈りの本当の大切さをよく知ることができれば、まだ救われていない方々はイエス様のみもとに導かれ、また、すでに救われている方々は、いまよりもさらに何倍もイエス様に祈るようになるにちがいありません。そして、私たちが主に祈るための励ましとなるのが、この「絶えず祈れ」の上巻であり、下巻です。「絶えず祈れ」、「まことの祈り」、「祈りへのまねき」、「真剣な祈り」、「祭司としての奉仕」、「イエスのみ名によって祈る」、「祈りのかぎりない可能性」などのメッセージが収められています。



■ キリスト集会の本、雑誌などの注文はハガキで下記迄。電話での注文は、お控えください。

注文先 〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町 4-9-11 吉祥寺キリスト集会

集会の出版物



主は生きておられる 第54号

定価100円（税込み）2020年8月1日発行

編集スタッフ

岩本秀造 黒澤錬二 鈴木力

芳我幸雄 福留伸子 牧野正士

印刷・制作

ニューライフ・ミニストリーズ 新生宣教団

題字デザイン

飯守格太郎

発行所

キリスト集会

サイトマップ(キリスト集会のご案内) <http://christ-shukai.net/>

写真や版画のご提供をいただきました。

勝手ながらお名前は省かせていただきます。

ご協力ありがとうございました。